

実践報告 1

小学校外国語活動から外国語科に向けた実践

ー日本人教師とALTの役割を明確にし、「めあて」と振り返りを取り入れた授業実践ー

稲沢市立大里東小学校 教諭 鈴木 啓太

1 はじめに

2020 年度の小学校新学習指導要領の完全実施に向け、小学校高学年の外国語の教科化や中学年の外国語活動の導入と、それに伴う授業時数の増加など、小学校における外国語教育の役割はますます大きくなり、授業内容の見直しが必要となっている。

現行の外国語活動について、日本人教師と ALT とのチーム・ティーチングで実施している学校の中では、ALT が主体となって授業が進められている学校も少なくない。しかし、平成 30 年度から新学習指導要領実施に向けての移行措置により、小学校 3～6 年生においては年間 15 時間授業時数が増えることになる。さらに、先行して実施する学校では、小学校 3～6 年生において年間 35 時間授業時数が増えるため、全ての授業において ALT とのチーム・ティーチングを行うことは難しくなると考えられる。担任が原則として外国語活動や外国語科の授業を行う場合には、指導方法や評価の面で、負担は増すことになる。このことから、現在小学校高学年で行っている外国語活動の指導において、日本人教師と ALT との役割を明確にすることで、より効果的な外国語指導の在り方を探り、平成 30 年度からの指導に生かすことが必要であると考えた。

本校は、平成 29 年度、稲沢市より「小学校英語教育推進事業」の委託を受け、「授業内容の見直し」と「日本人教師と ALT との役割の明確化」を 2 本の柱とし、研究を進めている。さらに、本実践において、今後の小学校中学年と高学年の接続を視野に入れて、授業実践を進めていきたいと考えた。

2 児童の実態

本校第 5 学年児童 85 名に対し、外国語活動の授業に対する意識調査を行った(平成 29 年 6 月実施)。

質問 1 外国語活動の授業は楽しいですか。

- | | |
|------------|--------------|
| ① とても楽しい | 31 人 (36.5%) |
| ② 楽しい | 34 人 (40.0%) |
| ③ あまり楽しくない | 13 人 (15.3%) |
| ④ 楽しくない | 7 人 (8.2%) |

質問 2 ALT の先生が話していること (英語での指示やゲームなどの説明) は分かりますか。

- | | |
|----------------|--------------|
| ① ほとんど分かる | 26 人 (30.6%) |
| ② どちらかと言えば分かる | 43 人 (50.6%) |
| ③ どちらかと言えば分らない | 10 人 (11.8%) |
| ④ 分からない | 6 人 (7.0%) |

質問3 授業で学んだことが身に付いている（聞いて分かったり、話したりすることができる）と思いますか。

| | |
|------------------|-------------|
| ① ほとんどできている | 32人 (37.6%) |
| ② どちらかと言えばできている | 40人 (47.1%) |
| ③ どちらかと言えばできていない | 8人 (9.4%) |
| ④ できていない | 5人 (5.9%) |

意識調査の結果によると、20%程度の児童が、「ALT が授業中に話していることがどちらかと言えば分からない、または分からない」と答えている。また、15%程度の児童が、「授業で学んだことが身に付いていない」と答えており、「授業で学んだことがほとんど身に付いている」と答えている児童は40%に達していないことが分かった。

そこで、児童に、ALT が話す内容を理解させる手だてや学んだことが身に付いたと実感させる手だてが必要であると考えた。

3 研究の目的

小学校新学習指導要領（文部科学省，平成29年3月）の「第4章 外国語活動」の「第1 目標（1）」には、「外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする」と記されている。一方、「第2章第10節 外国語」の「第1 目標（1）」には、「外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする」と記されている。このことを踏まえ、児童が授業で学んだ内容が身に付いていると実感できるような授業展開を工夫し、その効果を検証する。また、本校の児童の実態から、授業中にALT が話す内容を児童によりよく理解させ、授業中の言語活動により積極的に取り組ませることで、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指す。

4 研究の仮説

研究の目的を達成するために、次のような仮説を立てて検証することとした。

仮説1：授業の冒頭での「めあて」の提示の仕方や、授業の最後での「振り返り」を工夫すれば、児童に学んだ内容が身に付いたと実感させることができるであろう。

仮説2：担任とALT とのチーム・ティーチングにおいて、それぞれの役割を工夫すれば、児童に授業内容を理解させ、言語活動により積極的に取り組ませることができるであろう。

5 研究の方法

研究の仮説を検証するため、外国語活動の授業において以下の方法で実践を行うことにした。

(1) 「めあて」と「振り返り」に関する工夫の手だて

ア 「めあて」の提示による各授業の目標の明確化…**手だてA**

(ア) 授業の冒頭に担任（以下、HT：ホームルーム・ティーチャーと示す）が日本語で本時の「めあて」を板書し、児童に示す。

(イ) 視覚的に児童に訴えるために、「めあて」を示す際 “Today’s Target” という札を見出しとして用いる。

(ウ) 振り返りの際に用いる振り返りシート (Feedback Sheet) (p.10 資料3) にも、本時の「めあて」を記載する。

イ 振り返りシート (Feedback Sheet) を用いた、振り返りによる学習内容の定着化…**手だてB**

(ア) 授業の最後に振り返りシート (Feedback Sheet) を用いて、授業の冒頭に確認した「めあて」に対して4段階で自己評価させる。

(イ) 授業を通して、どのようなことができるようになったのか、具体的に記述させる。

(2) HT と ALT の役割に関する工夫の手だて

ア コミュニケーション活動の説明に対するリスニングポイントの提示…**手だてC**

(ア) ALT が英語でコミュニケーション活動の説明をする前に、HT が日本語でその説明に対するリスニングポイントを示し、聞き取らせる。

(イ) リスニングポイントの内容が理解できたか児童に確認する。

(ウ) 児童が聞き取れなかった部分や、リスニングポイントに示さなかった細部について、HT が補足説明をし、取り組む活動について理解を深めさせてからコミュニケーション活動に取り組ませる。

イ HT と ALT による会話のデモンストレーション…**手だてD**

(ア) コミュニケーション活動で用いる会話例を HT が板書し、児童にモデルを示す。

(イ) ALT がコミュニケーション活動について説明しながら、HT と ALT で実際の会話例をジェスチャーなどを交えて示す。

(3) 検証方法

ア アンケートによる児童の意識の変化の把握

イ 児童の様子や反応、コミュニケーション活動への取組の分析

(4) 単元構想

| | | |
|---|---|---|
| 1 単元名 | Lesson 6 What do you want? アルファベットを探そう | |
| 2 単元の目標 | <ul style="list-style-type: none">積極的にアルファベットの大文字を読んだり、欲しい物を尋ねたり答えたりしようとする。アルファベットの文字とその読み方を一致させ、欲しい物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。身の回りに、アルファベットの大文字で表現されている物があることに気付く。 | |
| 3 単元の評価規準 | | |
| コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 外国語への慣れ親しみ | 言語や文化に関する気付き |
| 積極的にアルファベットの大文字を読んだり、欲しい物を尋ねたり答えたりしようとしている。 | アルファベットの大文字とその読み方を一致させ、欲しい物を尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しんでいる。 | 身の回りに、アルファベットの大文字で表現されている物があることに気付いている。 |

4 単元の概要と言語活動

本単元は、初めてアルファベットの文字を題材とする単元である。ここでは、アルファベットの大文字を知り、その読み方に慣れ親しむとともに、身の回りにはアルファベットの大文字の表示がたくさんあることに気付かせることをねらいとしている。また、相手に何が欲しいか尋ねたり、それに答えたりする表現に慣れ親しむこともねらいとしている。

学んだアルファベットの大文字を用いながら、相手に何が欲しいか尋ねたり答えたりする言語活動を工夫することで、アルファベットの大文字を読むことができるようになったり、相手とお互いに何が欲しいかについて尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しませる。

5 単元の指導計画（全4時間） ※1時間：45分

| | 学 習 活 動 (児童) | 言語活動に関する指導上の留意点 (教師) |
|-----|---|--|
| 全時間 | (冒頭) ・本時の「めあて」を確認する。 (最後) ・振り返りシートで本時の授業を振り返る。 | ・全時間において、授業の冒頭でその時間の「めあて」を提示し、学習意欲を高めさせる。 手だてA ・全時間において、授業の最後にその時間の「めあて」に対して、自己評価を行わせる。 手だてB |
| 第1時 | 【身の回りのアルファベットの大文字を見つける】 ・アルファベットの大文字を見て、ALTと発音練習をする。 ・アルファベットの大文字が含まれる写真の中から、アルファベットの大文字を見つける。 ・自分の文房具や身に付けている衣類からアルファベットの大文字を見つける。 | ・“B”と“V,” “L”と“R,” “M”と“N,” “G”と“Z”の発音の違いを意識させて発音練習させる。 ・身近な風景や物が写った写真を用いて、次の活動へつなげる。 ・児童が見つけたアルファベットが書かれた文房具や衣類を見せて、発音させる。 |
| 第2時 | 【アルファベットの大文字を正しく読む】 ・アルファベットの大文字を見て、ALTと読み方を復習する。 ・ALTのコミュニケーション活動についての説明を聞く。 ・読まれたアルファベットの順に線で結び、現れるアルファベットや数字が何かを答える。 (Hi, friends! 1 p.24 Let's Listen) | ・HTがアルファベットの大文字のカードを児童に見せて、発音練習の補助をする。 ・ALTの説明の前に、HTが以下のリスニングポイントを児童に日本語で与える。 手だてC 〔リスニングポイント〕 聞こえたアルファベットをどうしていくか。 |

| | 学 習 活 動 (児童) | 言語活動に関する指導上の留意点 (教師) |
|-----|---|--|
| 第3時 | <p>【アルファベットを正しく読み、相手に欲しいアルファベットを尋ねたり、それに答えたりする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に何が欲しいか尋ねる表現 “What do you want?” を ALT と練習する。 ・相手に何が欲しいか尋ね、それに答える表現を ALT と練習する。 ・HT からコミュニケーション活動の説明に対するリスニングポイントを聞く。 ・HT と ALT のデモンストレーションを見ながら、ALT からコミュニケーション活動についての説明を聞く。 ・HT からリスニングポイント以外のルールについての説明を聞く。 ・コミュニケーション活動を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・HT は “What do you want?” と板書する。 ・HT は以下の表現を板書する。 A : What do you want? B : The ___ card, please. ・ALT の説明の前に、HT がリスニングポイントを児童に日本語で与える。 手だてC ・ジェスチャーも加えて、デモンストレーションを行う。手だてD |
| 第4時 | <p>【相手に欲しい物を尋ねたり、それに答えたりする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の会話例を復習する。 A : What do you want? B : The ___ card, please. ・HT からコミュニケーション活動についての説明のリスニングポイントを聞く。 ・HT と ALT のデモンストレーションを見ながら、ALT のコミュニケーション活動についての説明を聞く。 ・リスニングポイントについて、聞き取った内容を発表する。 ・リスニングポイント以外のルールについて HT からの説明を聞く。 ・コミュニケーション活動を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ALT と児童、男子児童と女子児童といったように、さまざまなパターンで練習させる。 ・ALT の説明の前に、HT がリスニングポイントを児童に日本語で与える。 手だてC ・ジェスチャーも加えて、デモンストレーションを行う。手だてD ・英語だけで、コミュニケーション活動を行わせる。 |

6 学習活動と新学習指導要領との関連

- アルファベットの大文字を正しく読むことができる。

イ 読むこと

- (ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかや、その文字が大文字であるか小文字であるかを識別する。
- (イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する。

- 相手に欲しい物を尋ねたり、答えたりすることができる。

ウ 話すこと〔やり取り〕

- (ア) 初対面の人や知り合いと挨拶を交わしたり、相手に指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする。
- (ウ) 自分に関する簡単な質問に対してその場で答えたり、相手に関する簡単な質問をその場でしたりして、短い会話をする。

7 言語活動の充実の工夫

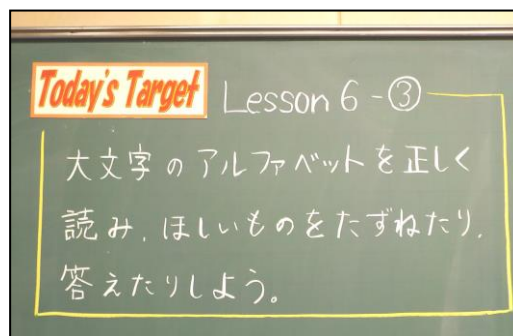
本単元では、「読むこと」と「話すこと〔やり取り〕」を有機的に結び付け、アルファベットの大文字を正しく読むことができることと、相手に欲しい物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことをねらいとしている。アルファベットの大文字を第1時、第2時を中心に取り扱い、アルファベットの大文字を用いて相手に欲しい物を尋ねたり答えたりさせることで、アルファベットの大文字とその読み方を一致させるとともに、欲しい物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことを目標とする。

6 研究の実際と考察

(1) 「めあて」と「振り返り」

ア 「めあて」の提示による各授業の目標の明確化…**手だてA**

毎時間授業の冒頭で、担任が本時の授業で「具体的に何ができるようになるか」を示した目標を日本語で板書し、授業中児童がいつでも確認できるようにした。他教科においても、毎授業の冒頭に、本時の「めあて」をノートに書いたり、板書された「めあて」を確認したりして授業に臨んでいるため、外国語活動においても「めあて」を提示することは、児童にとって特別なことではなく、受け入れることができている。



【「めあて」の板書】

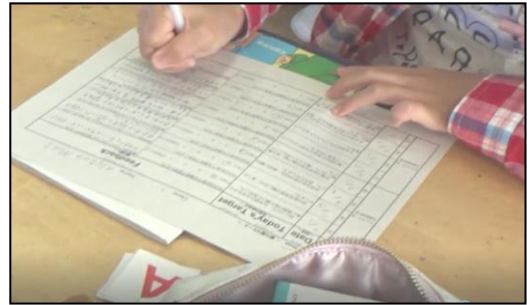
以下に、単元 Lesson 6 の毎授業の「めあて」を示す（資料1）。

【資料1 Lesson 6の本時の「めあて」】

| 単元 | 本時の「めあて」 |
|------------|-------------------------------------|
| Lesson 6-① | 身の回りにある大文字のアルファベットを見つけよう。 |
| Lesson 6-② | 大文字のアルファベットを正しく読もう。 |
| Lesson 6-③ | 大文字のアルファベットを正しく読み、欲しい物を尋ねたり答えたりしよう。 |
| Lesson 6-④ | 友達に欲しい物を尋ねたり、友達に欲しい物を答えたりしよう。 |

イ 振り返りシート（Feedback Sheet）を用いた，振り返りによる学習内容の定着化…**手だてB**

授業の最後に本時の目標に対して，振り返りシート（Feedback Sheet）を用いて，目標を達成できたかを4段階で児童自身に振り返らせた。また，具体的にどのようなことができるようになったかを記述させた。ほとんどの児童が，振り返りシートに書かれた本時の「めあて」を確認しながら，授業でどのようなことができるようになったのかを書くことができていた。



【振り返りシートを書く様子】

単元 Lesson 6 の第3時における児童の振り返りシートの記述例を示す（資料2）。

【資料2 児童の振り返りシートの記述例】

| 4段階での自己評価 | コメント |
|-----------|--|
| 4 | ゲームの中で自然と英語で尋ねたり，答えたりすることができた。 |
| 4 | 大文字を使って欲しい物を尋ねることができたので勉強になりました。 |
| 4 | 「ラッキーカードゲーム」の中で，欲しい物を尋ねる時，アルファベットの発音を上手に言えました。 |
| 3 | アルファベットをよく言えるようになった。 |
| 3 | 欲しいカードを尋ねる時，うまく尋ねられなかったけれど，答える時はしっかりできるようになりました。 |

ウ 事後アンケート結果

「めあて」と「振り返り」に関するアンケート結果は，次のとおりであった（平成29年10月実施）。

| | |
|---|------------|
| 「めあて」や「振り返り」は，授業で学んだ内容を確認するための役に立ちましたか。 | |
| ① とても役に立った | 34人（41.5%） |
| ② どちらかと言えば役に立った | 37人（45.1%） |
| ③ どちらかと言えば役に立たなかった | 9人（11.0%） |
| ④ 役に立たなかった | 2人（2.4%） |

(2) HTとALTの役割

ア コミュニケーション活動の説明に対するリスニングポイントの提示…**手だてC**

ALTがコミュニケーション活動についての説明をする前に，HTが児童にリスニングポイントを2～4問与えて，要点を絞らせてALTの説明を聞かせた。この手だてによって，ALTの話している内容を理解できている児童が以前よりも増え，ALTの説明後に，聞き取れた内容を児童に発言させ確認することで，聞き取れなかった児童ともコミュニケーション活動の内容を共有することができた。

次に，本実践で実際に児童に示したリスニングポイントとコミュニケーション活動の例を示す。

| 単 元 | 活動内容 | リスニングポイント |
|-------------|--|---|
| Lesson 6 -③ | (1) 26 枚のアルファベットカードから 10 枚選ぶ。 (2) 相手とジャンケンをし、A・B を決定する。 A: What do you want? B: The ___ card, please. (3) 最後 HT が示すラッキーカードが何か聞く。 | ①ジャンケンに勝った人、負けた人は、それぞれ板書されている A・B のどちらか。 ②どうすればゲームに勝てるか。 |
| Lesson 6 -④ | (1) グループをつくる。 (2) 26 枚のアルファベットカードから 10 枚選ぶ。 (3) 相手が欲しいと言ったカードがない場合は、残りの 16 枚から 1 枚カードを取る。 (4) 手持ちのカードの少なさを競う。 | ①相手に言われたカードがなかったらどうするか。 ②どうすればゲームに勝てるか。 |

イ HT と ALT による会話のデモンストレーション…**手だてD**

HT と ALT でコミュニケーション活動のデモンストレーションをしながら、ALT が活動について説明するようにした。その際、コミュニケーション活動で用いる会話例を板書し、その会話文を使う際に板書を手で指し示し、児童に分かりやすくした。



ウ 事後アンケート結果

「リスニングポイント」に関するアンケートの結果は、次のとおりであった（平成 29 年 10 月実施）。

リスニングポイントは ALT が話していることを理解するための役に立ちましたか。

- | | |
|--------------------|--------------|
| ① とても役に立った | 40 人 (48.8%) |
| ② どちらかと言えば役に立った | 37 人 (45.1%) |
| ③ どちらかと言えば役に立たなかった | 4 人 (4.9%) |
| ④ 役に立たなかった | 1 人 (1.2%) |

(3) 事後アンケートの実施

本校第 5 学年児童 82 名に対し、外国語活動の授業に対する意識調査を行った(平成 29 年 10 月実施)。

[] 内は、事前アンケート(平成 29 年 6 月実施)の結果との差を示す。

質問 1 外国語活動の授業は楽しいですか。

- | | |
|------------|-----------------------|
| ① とても楽しい | 39 人 (47.6%) [+11.1%] |
| ② 楽しい | 34 人 (41.5%) [+1.5%] |
| ③ あまり楽しくない | 7 人 (8.5%) [-6.8%] |
| ④ 楽しくない | 2 人 (2.4%) [-5.8%] |

質問 2 ALT の先生が話していること(英語での指示やゲームなどの説明)はわかりますか。

- | | |
|-----------------|----------------------|
| ① ほとんど分かる | 25 人 (30.5%) [-0.1%] |
| ② どちらかと言えば分かる | 49 人 (59.8%) [+9.2%] |
| ③ どちらかと言えば分からない | 6 人 (7.3%) [-4.5%] |
| ④ 分からない | 2 人 (2.4%) [-4.7%] |

質問3 授業で学んだことが身に付いている（聞いて分かったり、話したりすることができる）と思いますか。

| | |
|------------------|----------------------|
| ① ほとんどできている | 45人 (54.9%) [+17.3%] |
| ② どちらかと言えばできている | 30人 (36.6%) [-10.5%] |
| ③ どちらかと言えばできていない | 7人 (8.5%) [-0.9%] |
| ④ できていない | 0人 (0.0%) [-5.9%] |

7 成果と課題

(1) 仮説1の検証

10月に実施したアンケート結果と6月に実施したアンケート結果を比較すると、授業で学んだことが身に付いていると答える児童は大幅に増加した。また、86%以上の児童が、「めあて」や「振り返り」が授業で学んだことを確認するための役に立ったと答えている（p. 7 ウ 事後アンケート結果参照）。

このことから、授業の冒頭で「めあて」を提示したり、授業の最後に「振り返り」を実施したりすれば、授業で児童に学んだことが身に付いたと感じさせることができることが分かった。

(2) 仮説2の検証

10月に実施したアンケート結果と6月に実施したアンケート結果を比較すると、ALTの話すことを理解していると答える児童も増加した。また、93%以上の児童が、HTが示すリスニングポイントは、ALTが話すことを理解するために役に立ったと答えている。このことから、HTとALTの役割を工夫すれば、児童に授業の内容を理解させることができることが分かった。

(3) 今後の課題

本実践では、「めあて」の提示や「振り返り」の取組や、HTとALTのチーム・ティーチングにおけるそれぞれの役割を工夫することで、児童の理解度が高まったことが分かった。新学習指導要領ではアルファベットを書く指導が必要となるため、「書くこと」の指導方法について更なる研究に取り組む必要がある。また、小学校高学年の教科化に伴い、評価についても課題の一つとして挙げられる。

8 おわりに

本実践では、小学校第5学年の外国語の授業では、「めあて」の提示や「振り返り」の取組が有効であることや、HTとALTのチーム・ティーチングにおいてそれぞれの役割を工夫することが重要であることを確認できた。今後も、小学校中学年と高学年の接続や、小学校高学年と中学校の接続を視野に入れて、研究を進めていきたい。

参考文献等

- 文部科学省『小学校学習指導要領』平成29年3月公示
- 『小学校英語教科化への対応と実践プラン』吉田 研作 編 教育開発研究所 2017

【資料3 振り返りシート (Feedback Sheet)】

| フィードバック シート | | フィードバック | | |
|--------------------------------|----------|---------------------------------------|-------------------|--------|
| 5年生 Feedback Sheet ~ 振り返りシート ~ | | | | |
| Date | トピック | ターゲット | Feedback | |
| ～日付～ | ～今日のめあて～ | Today's Target | ～振り返り～ | |
| ① | / | 色について、日本語のカタカナの音と英語の音の違いに気付こう。 | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| | | | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| ② | / | 色や形を英語で聞いたり、言ったりしよう。 | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| | | | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| ③ | / | 好きな色や形が何か、相手に尋ねたり、答えたりしよう。 | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| | | | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| ④ | / | 友達の良い色や食べ物、また動物について、進んでインタビューしよう。 | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| | | | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| ① | / | 身の回りにある大文字のアルファベットを見つけよう。 | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| | | | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| ② | / | 大文字のアルファベットを正しく読もう。 | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| | | | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| ③ | / | 大文字のアルファベットを正しく読み、ほしいものを尋ねたり、答えたりしよう。 | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| | | | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| ④ | / | 友達にほしいものを尋ねたり、友達にほしいものを答えたりしよう。 | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |
| | | | 今日のめあては達成できましたか。 | |
| | | | できた 4 - 3 - 2 - 1 | できなかつた |